

- **日程**：2023年9月25日～29日
(23日～24日に会期間会合 (IP4.3))
- **場所**：ドイツ・ボン (議長：Dr. Anita Breyer (Germany))
- **参加国等**：約110ヶ国・地域、国際機関、保健・労働部門、産業界、NGO
- **日本出席者**：松澤地球環境審議官、吉川環境安全課長、他



● 概要

- 2006年に策定された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ (SAICM) の後継となる枠組みを議論。
- 今後の化学物質の適正管理に関し、自主的かつ多様な主体が関与する世界的な枠組みを策定。

● 新たな枠組み文書 (Global Framework on Chemicals (GFC) – For a planet free of harm from chemicals and waste) のポイント

- **多様な分野** (環境、経済、社会、保健、農業、労働等) における**多様な主体** (政府、政府間組織、市民社会、産業界、学术界等) によるライフサイクル (製造から製品への使用等を経て廃棄まで) を通じた化学物質管理の枠組み
- **5つの戦略的目的** (①能力・法制度の整備、②知識・情報・データ、③懸念課題、④より安全な代替、⑤意思決定プロセスへの統合) とそれを実現するための**個別ターゲット (目標)** の設定。
- 実施に当たっての**支援メカニズム、懸念課題の特定、能力形成**の方法を設定。
- 資金確保に関する**統合的アプローチ (化学物質管理の主流化、民間セクターの関与、基金の活用)**
- 透明性があり利用しやすい**オンラインツールを導入した進捗報告・開示**や進捗を適切に把握するための**測定枠組みの設置**

● 日本の貢献

- 会期中は、個別の議題に関する議論において**我が国が議長を務め**、円滑な合意形成に貢献。
- 我が国が**進捗把握の仕組みを提案**し、枠組み文書に盛り込まれた。
- これらの貢献が評価され、我が国が新たな枠組みにおける**委員 (アジア・太平洋地域の地域フォーカルポイント)** に選出。1